

「安全に向けての反省会」

津田中学校 一年 和田 七海

私は、いつも欠かさずやっていることがあります。それは、硬筆から帰ってきて、自転車での道中に危なかったことや困ったことを母と話し合うことです。私は、小学三年生から自転車に乗って硬筆に通うようになりました。自転車での道中は、いつも想定外の事が起こります。私は、とっさの判断が正しかったのか気になります。また、次にまた同じ事が起こった時にどのように対応すれば良いのかも、自分の考えに不安があります。ですから、母と話し合うことで、不安を解消し、安全対策にしています。

私が小学生の時は、自転車で転倒することが何回もありました。そのうちのほとんどが、カーブで曲がり切れずに転倒していました。私は、カーブでスピードを出したままで曲がろうとするのが原因だと分かっています。けれど、これくらいのスピードなら大丈夫と油断していました。よく母に、しつこいくらい「カーブではスピードを落とす。」と叱られていました。酷い時には、転倒した時にガードレールで頭をぶつけることもありました。他に危険な思いをした事は、車の動きが予測できなかった時です。駐車場から出てきた車は、道路に出るために、車が途切れるのを待っています。早く道路に出たいがために、歩行者や自転車が車の近くまで来ていることに気づいていないこともよくあります。私は、車は必ず止まってくれていると思いついていたため、車の前を通っている時に、急に動き出した車に驚くことも多々ありました。

今夏、妹が小学三年生になり、自転車に乗り始めました。私は、妹の後ろを走り、妹の安全にも気を配ることになりました。自分が母の後ろを走っている時と違い、妹のアシスタントとしてしっかりとしないといけないと責任を感じるようになりました。妹が入学して一緒に登校する時に交通ルールを教えた時と違って、自転車は徒歩より危険が多く感じます。なぜなら、横にならんでいる訳でないので、常に危険を妹に知らせることができないからです。私は、できる限り、妹の後ろから声をかけるように心がけています。しかし、妹自身も気を付けてもらわないといけないことが多々あります。母や私が気付かない妹に迫る危険もあると思います。自分の安全は、自分で守るしかありません。より一層、妹が安全に自転車に乗れるように、また、自分の安全も対策しないとけません。そのため、母と協力して、自分達の交通ルールを作ることが大切だと思っています。

私は、これからも「安全に向けての反省会」を続けていこうと思います。今までは、母と私の二人だけの反省会でした。けれど、これからは、妹にも参加してもらおうと思います。なぜなら、妹も自転車に慣れてきて、妹ならではの困り事もあると思うからです。しっかりと話し合って、安全に努めたいと思います。